

阪神電車（阪神電鉄）ジェットカー

日本で唯一生き残った高加減速車

ジェットカーは、日本で初めての高加減速車両である近鉄の「ラビットカー」に次ぐ日本で2番目の高加減速車両です。阪神では1950年代前半から、車両関係者・技術者や電機メーカーなどと高加減速車両の開発を行っていました。愛称は、『従来の車両をプロペラ機にたとえるならこの車両はジェット機に匹敵するぐらいの加速・減速の良さである』という比喻から名付けられました。

起動加速度4.5km/h/sは2015年3月現在、日本の鉄道車両の中で阪神が唯一です。ジェットカーに類する高加減速車は京阪2000系「スーパーカー」、近鉄の6800「ラビットカー」が過去に存在していましたが、現在活躍するのは阪神のみです。

まずは、この経緯を探ります。JR、私鉄が京阪神間に並行し、各社の競争が激しかった関西の鉄道は、スピードや利便性を競いました。その中で開発されたのが高加減速車です。高加減速車は、高速性能よりも加速と減速を重視した車両です。ですから、各駅に停車する普通列車に向いています。

京阪と近鉄の場合、いずれも沿線人口の増大に車両増備が追いつかなくなり、通常の加減速度を有する車両と併結されるなどして高加減速運用を解除されました。新造車両も車両の大型化や高速安定を目指したものが主流となりました。こうして、ラビットカーやスーパーカーは姿を消したのです。

阪神のみ高加減速車が生き残ったのは、沿線が成熟していて人口の増大が緩やかであったこと、営業キロ数が短く普通列車の運用本数が少ないため車両管理がしやすかったこと、本線の平均駅間距離が大変短いこと等が理由です。



「ザ!鉄腕!DASH!!」でTOKIOとリレー対決した5500系



最新の5700系 リレー再挑戦



今も活躍する2代目5001系

1958年に初めて製造されたジェットカーは半世紀を過ぎた今もなお、その伝統を受け継ぎ走り続けているのです。

転載、参考資料

Wikipedia 「ジェットカー」

「5500系」「5001系」